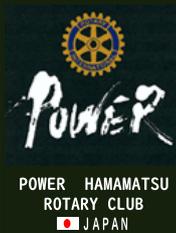


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

新しい流れを、知恵を集めて

RI 会長 シェカール・メータ/第 2620 地区ガバナー 小林聡一郎 /会長 高貝 亮 /幹事 山下俊彦
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第859回例会7月13日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：鷺津有一 青山素久 ■点鐘：高貝 亮 ■週報：中野雄介
- ロータリーソング：「夢のみずうみ」(※音楽のみ)
- ゲスト：国際ロータリー第 2620 地区 21-22 年度ガバナー補佐 石津匡美様
同 ガバナー補佐事務局長 磯部宅司様
米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 75 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 61 名 出席率 82.43%

スマイル提出者氏名掲載
・高貝会長・山下幹事
・中野敬司さん
・原田道子さん
・小澤邦比呂さん
・安間孝明さん

会長挨拶



先日、静岡県知事選挙がありました。また、秋には衆議院議員選挙も近づいています。選挙は民主主義の根幹の制度ですので、視覚障害者の方も点字や代筆により投票ができます。しかしこれは、昔からそうだったという訳ではありません。世界で初めて点字式投票がされたのは浜松でした。1926年、浜松市議会議員選挙で東小学校と元城小学校の投票所で投票が行われたのが最初です。

浜松は視覚障害者の福祉に縁の深い町で、日本式の点字を考案された石川倉次さんの出身地でもあります。石川倉次さんは、江戸時代の終わりに、浜松藩士の子として鹿谷町に生まれ、高町にあった藩校、克明館で学んだそうです。その後、藩主の国替えに伴い、石川一家も上総国(現在の千葉県)に移り住みました。千葉で教員となった石川倉

次は、東京の訓盲啞院(現在の筑波大学附属視覚特別支援学校)に赴任し、そこで西洋の点字を日本の仮名に翻案する研究を行って日本式点字を完成されたそうです。

当クラブにも卓話にきていただいた斯波千秋さんは、視覚障害者の福祉に取り組むNPO法人六星ウイズの代表をつとめられています。ウイズは蛸塚と半田山を拠点に視覚障害者の支援に取り組んでおられます。ウイズの活動は、メンバーの小川さんを初め多くの方が継続的に支援くださっています。

ウイズは平成8年に開設されました。当時、障害者の居場所としての小規模作業所が全国に約4000カ所ありましたが、その中に視覚障害者を対象とする作業所は一つもありませんでした。重い障害に関わる人たちも、視覚障害者は生産活動はできない、と決めつけていたのです。斯波さんは様々な苦難を乗り越えて、視覚障害者の授産施設を軌道に乗せ、多数の視覚障害者の方々の人生を豊かにするとともに、視覚障害者のための新しい福祉をつくる牽引役となっています。

障害のある方々や支える方々と接していると、心洗われるような機会に恵まれることがあります。

メンバーの井熊さんの会社 K-mix の日吉浩之さんがウイズのニュースレターに寄稿されていたエピソードを紹介します。

昨年亡くなられた CW ニコルさんが K-mix の番組に出演されたときの話です。

ニコルさんは長野県でアファンの森という自然研修施設を運営されており、ときどき視覚障害者の子どもたちを招いて自然体験教室を行っていたそうです。ナイトハイクをしようと真っ暗な森に出かけると、子どもたちはどんどん先に行ってしまう。付添の大人たちがついて行けません。どうしてそんなに早く歩けるのか聞くと、昼間に来たから道が分かっているんだ、と答えたそうです。また、別の少年は、景色のよいところで写真を撮っている。ニコルさんが、君は目が見えないのにどうして写真を撮るのか、と尋ねると、少年は、こんなにいい景色なんだから、家に帰ったら家族に見せるんだ、と言ったそうです。風が吹いて木々が揺れ、川の流れ、鳥のさえずり、見えないからこそ見えるものがあることをニコルさんも実感されたそうです。

地域の素晴らしい活動と連携し、協力して取り組んでいくことができるといいなと思います。

幹事報告

- ① ロータリークラブの基本的なルールの説明。出席・メイクアップについて
- ② 先週7月6日の例会内で実施した「熱海市豪雨災害支援募金」は6万円集まりました。国際ロータリー第2620地区2620熱海豪雨災害支援本部に送らせていただきます。
- ③ 7月10日「地区ロータリー財団セミナー」が開催され 加藤ひとみ会長エレクト、ロータリー財団委員長 鈴木孝尚さん、幹事 山下が参加しました。
- ④ レターケースに会員手帳を配布しました。

後藤達郎さん
稲垣有治さん
奥山恵理子さん
鷺津有一さん

委員会報告

- 職業奉仕部会 松島委員長
9月6日～9月11日の第1回職場訪問例会について
- ゴルフ同好会 河村公隆さん
第1回青空例会は9月19日 浜松カントリークラブで開催します。

2021-2022年度ガバナー補佐 石津匡美 様 ご挨拶



今度 2620 地区静岡第 5G の、ガバナー補佐の大役の任を賜りました、石津匡美と申します。歳を重ねたことと、RC の在籍年数が長いという以外に何のとりえもありません。与えられた、任務を精一杯努めますので、来年 6 月まで宜しくお願いいたします。私は、1992.3 入会、2001 幹事、2014 地区副幹事、2015 会長を務めました。特に、岡本年度の時には多くの事を経験し、地区内外の多くの方と出会い、いい経験をさせていただきました。

私の、RC に関する考えは、それぞれの会員とクラブが RC の基であり、ガバナー補佐は、RI 会長や地区ガバナーの方針を各クラブに伝えることが、最大の任務だと思っています。

従って、私はグループ内のクラブ会員の皆さんに、ガバナーと地区の情報を伝え、又、クラブの考え方、情報をガバナー、地区に伝えるメッセンジャーでありそれ以上でも以下でもないと思います。合わせて、グループ内の連絡、調整役であると思っています。以上のような、ことを基本として、会員の皆さんの力をお借りして今年度活動したいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

今年度の RI 会長は、インド・西ベンガル州のカルカッタマハナガル RC のシェカール・メータ氏です。バーチャルで行われた国際協議会で、今年度のテーマを発表しました。

Serve to Change Lives 「奉仕しよう みんなの生活を豊かにするために」

ロータリアンが奉仕するのは、人々の生活を豊かにしたいという願いからであり、奉仕することによって誰かの人生だけでなく、自分の人生も豊かになる。そんな思いが込められています。

Grow More Do More 「もっと成長しよう もっと行動しよう」

これが、行動計画のためのサブテーマです。

「もっと行動しよう」とは、会員を増やして、参加基盤を広げることを意味します。

その手法として、“each one, bring one” 会員 1 人が 1 人以上の新会員を入会させましょう。

「もっと行動しよう」とは、より大きなインパクトをもたらす、奉仕プロジェクトの実行を意味します。

各クラブが、ローターアクトやインターアクトの活動、また他の団体及び市民と共に合同で奉仕活動をする。

それによってロータリークラブの公共イメージ向上を図ろうというものです。

今年度小林 聡一郎 ガバナーは、RI 会長の方針を実施するために

10 項目の地区運営方針と 10 項目のクラブ要請事項を発表いたしました。

これは既に PETS とか、地区研修協議会で皆さんは、ご存知であると思います。

第 1 例会で会長さんから今年度のクラブ運営計画で、お話しされておることとしますので、私からは、クラブ要請事項の内、今年度、私たちガバナー補佐に強く要請された項目をお話しさせていただきます。

1、会員増強 Grow More Each One, bring one

地区全体で会員数 3,000 名に回復させよう

2021/3 月 2,861 名 77 クラブ 第 5G 599 名 11 クラブ

2019/4 3,013 79 594

会員増強は、ロータリーの永遠のテーマではないでしょうか。

2、新クラブを、各グループ 1 クラブ設立しよう

これは、大変な要請項目です。会員の子弟が親と一緒にクラブに入りたがらない、あるいは、年配者や在籍年数の長い会員と若い会員が交流しづらい等の問題があり、会員がなかなか集まらない。

それならば、若い世代で構成する新しいクラブを作りましょう。という事です。

3、ロータリー奉仕デーの開催 Do More

RI シェカール・メータ会長の要請事項でもあります。

奉仕事業を 2 つ以上のロータリークラブと地域の企業、各種団体と共同で、積極的に実施することによってロータリークラブのイメージ向上に役立てよう。という事です。

以上 3 点が、最重要項目です。

特に、2 項目の新クラブの設立については、昨年 10 月 18 日の第 1 回次期ガバナー補佐会議で発表され

各ガバナー補佐は、戸惑いを感じました。

そこで、11 月 28 日静岡県内のガバナー補佐 5 名が静岡に集まり、ガバナー方針の諸事項の検討会を開きました。

その結果、その時に各ガバナー補佐から出された意見をまとめて、ガバナーに具申しようということになりました。それに対して、12月14日にガバナーが急遽、静岡に来られ、静岡県内のガバナー補佐を招集して、懇談会を開きました。その時は、当時のガバナーである志田さんも同席されました。その場で私たちガバナー補佐から、反対を含めた種々の意見を述べ、最終的には、地区の会員増強維持・拡大委員会で、充分検討いただきたいとお願いいたしました。

その際は、小林ガバナーからは、「既存クラブの会員増強が重要であり、多くの増強がなされれば、新クラブには拘らない。」との意見も出されました。

ところが、地区チーム研修セミナー、PETS,地区協議会と会を重ねるにつれ新クラブ設立ありきになっています。そこで、私としては、ガバナー方針でもありますので、「何もせず、ただ反対、あるいは、できませんでした。」と、いうことはできません。

そこで、6月の第2回会長幹事会で、各クラブの会長幹事さんに8月の第3回会長幹事会までに、それぞれのクラブのご意向をお聞かせ頂きたいとお願いいたしました。

このことは、非常にむづかしい大変なことであり、大切なことでもあります。

どうぞ皆さんのお考えを会長幹事さんにお伝え願いたいと思います。

以上、地区の方針の一部と、現状をお伝えいたしました。

それでは最後になりましたが、

貴クラブの益々の繁栄を祈願すると共に、第5グループの連携と親睦が深まりますよう、みなさま方のご理解とご協力を賜りますことをお願いして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

議事

■幹事：「華岡青洲と華岡家の歴史」

華岡青洲及び当家の家系について簡単に説明

青洲の家系 楠正成氏の一血統、さらに遠く敏達天皇の孫橘家の家系である。

後醍醐天皇時代の1313～1339頃の楠木正成を祖父母に持つ和田正之から続いている。その後～8～代後に青洲が3代目髓賢としてある。そして当家の流れでは青洲の弟、治平衛に子供なく青洲の子「たね」養女に迎え、父 華岡梓 青洲から数え当家6代目なり 子供たちが8代目輝青、恵洲、功力となる。青洲は紀州平山村の開業医の息子として生まれ 華岡青洲（1760～1835）この時代1760年10代徳川将軍家治が将軍職に就任している。このころ近代医学が勃興の時期、オランダ人により近代医学が持ち込まれ、杉田玄白の解剖学翻訳書「解体新書」が生後11年後に発行。1782年京都に3年間、遊学京都の医家、吉益南涯（よしますなんがい）（1750～1813）や外科医、大和見立（やまとけんりゅう）（1749～1782）に従事した。1785故郷に戻り、妻加恵と生活、父がこの年に亡くなっている。青洲の口癖は、「他人ができないような難病を直して見せるこそが、自分の本領なのだ」という事であった。外科医青洲は大手術をするためには麻酔薬が必要であると考え、当時の和漢古今の本を検索し、マンダラゲ（チョウセンアサガオ）を何とか使用できるように痛仙散を開発した。エーテル麻酔1841年～42年に先駆けること40年まえにこの偉業をなしえた。麻酔科の中では歴史的に有名であったが有吉佐和子「華岡青洲の妻」を発刊し取り上げられたことから世間に知られるようになった。1805年全身麻酔術を施行1例目の乳がん根治術を行った。この麻酔薬痛仙散を幕末の時代母及び妻加恵に痛仙散を服薬させ、意識が薄くなる、人体実験を行ったことが有吉佐和子の青洲の妻という本で紹介された。この母於継は、松本家出身当家と同じ丁ノ町出身、40歳で亡くなっている。青洲の妻、妻加恵は妹背家出身、紀伊での名門家である。痛仙散の内服により盲目になり、68歳の生涯を終えている。弟子も、近畿中国四国九州、北は関東周辺まで700名近く記載されている。弟子には名古屋の岩瀬家医療センター整形外科部長の先祖も名を刻んでいる。

